

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成26年3月27日(2014.3.27)

【公開番号】特開2013-156706(P2013-156706A)

【公開日】平成25年8月15日(2013.8.15)

【年通号数】公開・登録公報2013-043

【出願番号】特願2012-14621(P2012-14621)

【国際特許分類】

G 0 7 G 1/00 (2006.01)

G 0 7 G 1/01 (2006.01)

G 0 7 G 1/14 (2006.01)

【F I】

G 0 7 G 1/00 3 0 1 F

G 0 7 G 1/01 3 0 1 B

G 0 7 G 1/14

【手続補正書】

【提出日】平成26年2月6日(2014.2.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ケーブルにより周辺機器と接続される可搬型の情報処理装置において、
上記ケーブルにより上記周辺機器と接続される本体部と、
使用時に上記本体部を起立させて保持し、当該使用時に底の面となる底面部に上記本体部からのケーブルを通過させて上記周辺機器に向かわせる台座部と、
上記使用時の起立させた状態から運搬時の折り畳まれた状態に、上記本体部を上記台座部に対して回動させる回動部とを備え、
上記台座部は、上記本体部からのケーブルを上記底面部に導くよう上記ケーブルを通過させる開口部を当該底面部に有し、
上記開口部には、上記回動部の回動により折り畳まれた状態で当該台座部を吊り下げの姿勢で運搬するための把手部が設けられる
ことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 2】

上記開口部には、上記運搬時に当該開口部に入る指を安定させるため指係りが上記把手部として設けられる
ことを特徴とする請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 3】

上記開口部には、運搬する手の複数本の指が係るように、上記指係りが複数本設けられる
ことを特徴とする請求項 2 に記載の情報処理装置。

【請求項 4】

上記開口部には、上記指係りと指係りの間に当該開口部を通過する上記ケーブルの位置をガイドするガイド部が設けられる
ことを特徴とする請求項 3 に記載の情報処理装置。

【請求項 5】

上記台座部は、上記起立させた本体部を安定して保持するための重りを、上記底面部であって

少なくとも上記指係りの近傍を含む上記把手部の範囲に設ける

ことを特徴とする請求項 2 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 6】

上記台座部は、上記起立させた本体部を安定して保持するための主として金属板からなる重りを上記底面部に設け、

上記重りが上記開口部の少なくとも一部を形成し、上記重りに上記指係りが設けられて、上記重りの少なくとも一部が上記把手部となる

ことを特徴とする請求項 2 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 7】

上記情報処理装置は、POS 端末装置である

ことを特徴とする請求項 1 乃至 6 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

プリンタ 112 は、POS 端末装置 10 からの指示に基づき、顧客に渡す商品のレシートを印刷する。VFD 114 は、POS 端末装置 10 の上部に設置されるカスタマー用の表示部である。VFD 114 は、顧客のいる方向に商品価格等の表示を行うように、POS 端末装置 10 の上部に回転可能に設置される。また、周辺装置には、図示はしないが暗証キーパッド等が設置されることもある。そして、POS 端末装置 10 は、上記周辺装置以外にも、全体を統合するサーバーに LAN 経由で接続もされることもあるため、これらを含めて POS 端末装置 10 からは複数本の接続ケーブルが排出される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

また、マザーボード 26 には、周辺機器と結ばれるケーブルが接続されるコネクタも複数実装される。コネクタの種類としては、USB コネクタ、LAN コネクタ、RS 232C コネクタ、IEEE 1394 コネクタ等があり、周辺機器のケーブル仕様に合わせたコネクタが使用される。コネクタは、その端子がマザーボード 26 の下端部に実装され、接続用の部分（レセプタクル）だけが、本体部 20 の底部 35 に設けられた不図示のカバから外部に露出される。図 2 では、本体部 20 に実装されたコネクタ（レセプタクル）に、ケーブル 100 のコネクタ（ジャック）が接続された状態を示す。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

台座部 40 は、略直方体形状の外観で構成される。台座部 40 は、天面が開放された箱状のベースハウジング 43 と、ベースハウジング 43 の天面を覆うトップカバ 42 により外観が構成される。トップカバ 42 及びベースハウジング 43 いずれも、樹脂の一体成型品で構成されるがこれに限らず、他の素材でもよく、一体成型品でなくてもよい。ベースハウジング 43 の内部には、アダプタ 48、電源基板 49、バッテリー 50 等が取り付けら

れる。アダプタ 48 は、A C 電源コードにより外部から供給される A C 電源を所定の D C 電源に変換するものである。電源基板 49 は、アダプタ 48 で変換された D C 電圧を、さらに本体部 20 の C P U、タッチパネル 22 や L C D 24 等を駆動させる電圧に変換して、本体部 20 の各部に供給するものである。バッテリー 50 は、停電等により A C 電源からの電力供給が停止された場合の、バックアップ用の電源である。バッテリー 50 としては、例えばリチウムイオンやニッケル水素等の 2 次電池が利用される。